

未来の自分をつくる 「めざす働き方」実践講座 Vol. 5



仕事と暮らしの研究所 代表 鹿野 和彦氏

1991年に広報PR&人材育成支援等を行う株式会社アプレ コミュニケーションズを設立、2001年には仕事と暮らしの研究所を設立して労働組合・大学・自治体などのシンクタンクとしてサポート事業を展開。大正大学キャリア教育研究所招聘研究員、労働組合・各種団体の客員研究員。著作のテーマは人材育成、教育・社会問題、広報関係等幅広い。

めざす働き方を考える（1）

第3回、第4回では、「自分を棚卸しする方法」を学んできました。目的は、自分がめざす働き方を実現するためには、自分自身を生かすこと、自分の価値観に合致した仕事をしていくことが前提となるからです。今号では、第3回、第4回で整理した自分の強みや価値観をベースにしながら、自分が理想とする働き方を実現するための視点、および整理の仕方をまとめます。

「めざす働き方」を実現するなら 「自分」を軸に働き方を追求しよう

どうせ働くなら、自分の能力を最大限に発揮したい。それも、自分が本当にやりたいと思っている職業に就き、自分らしく働ける環境でそれができれば、こんなに素敵なことはないでしょう。

ところが、就職や転職を控えた人の行動を見てみると、つつい自分の思い・ニーズを抑制し、就職・転職できる可能性が高い会社の要求にのみ応えようとする人がめだちます。その結果、自分の能力を発揮できない職場でストレスをためる人、また企業風土や仕事のスタイルが自分の価値観に合わず、すぐに転職を考える人も少なくありません。

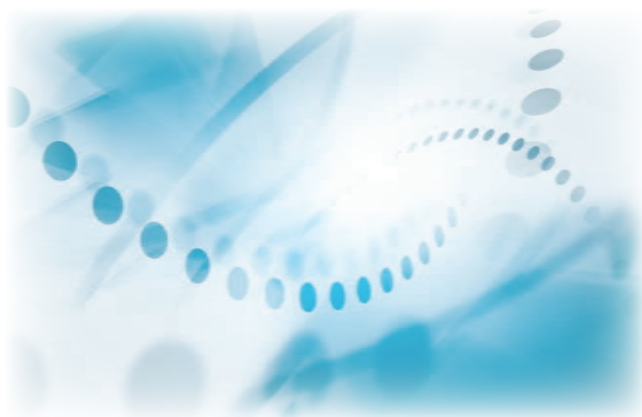
「めざす働き方」を実現するための前提条件、それは「自分らしく働く」ことを強く意識すること。今後、ますます多様化・個別化がすすむ産業社会においては、徹底して「自分」にこだわり、「自分の強み・能力」を生かすことがビジネスパーソンの基本的な働き方になることを認識しましょう。

自己本位で考える「自分」ではなく 社会・他者の視点で「自分」を整理する

「自分」にこだわるのが大切だからといって、一人よがりに自分の強みや価値観を主張しているだけ

では仕事に直結しません。また、就・転職先の会社が求める知識・スキル・行動特性などに応えられなければ、就・転職することすらままなりません。

マネジメントの神様といわれるドラッカーは、「経営とは価値を創造することだ」と言っています。同様に、労働とは社会・他者に価値を提供することであり、価値を感じないものに対価を払う人はいません。自分を掘り下げる際には、自己本位の姿勢から脱却すること。社会・他者の視点で「自分」を整理することが大切です。そして、自分の「求め」と相手の「求め」が一致する場所、つまり自分の強み、価値観が社会や企業が求めるニーズや価値観とマッチングしている場こそが、「めざす働き方」を実現できる場だと考えられるでしょう。



「SWOT分析」で、自分の強み・弱み 社会・他者が求めるものを整理する

企業が事業戦略、営業戦略を立案する際に活用する思考技術に「SWOT分析」と呼ばれるものがあります。

「SWOT分析」のSWOTは、S = Strength（強み）、W = Weakness（弱み）、O = Opportunity（機会）、T = Threat（脅威）の頭文字をとったもので、強みと弱みを「内部環境」、機会と脅威を「外部環境」と位置づけて整理していくのが特徴です。そのうえで、次の4つの質問を投げかけ、事業戦略・営業戦略を構築していきます。

- Q1. あなたは、どのように自分（自社）の強みを生かしますか？
- Q2. あなたは、どのように自分（自社）の弱さを克服しますか？
- Q3. あなたは、どのように周囲にある機会（チャンス）を活用しますか？
- Q4. あなたは、どのように周囲にある脅威（ピンチ）を取り除きますか？

「めざす働き方」を考える際には、「SWOT分析」の手法を応用し、次の2つのアプローチで自分の「求め」と相手（社会・他者）の「求め」をマッチング。相手の「求め」に「応えられる」自分の課題を抽出していきます。

● SWOT 分析

	内部環境	外部環境
プラス面	強み Strength 高い品質力、 確実な情報共有など	機会 Opportunity 景気上昇、 技術革新など
マイナス面	弱み Weakness 人材の高齢化、 利益の低下など	脅威 Threat 海外企業の参入、 景気の悪化など

この記事は損保労連ホームページにも掲載しています
(URL : <http://www.fniu.or.jp/mirai2/>)

特設サイトはこちらからも読み込めます→



アプローチ 1

自分が就きたい仕事（職種）を想定して分析する

手順

1. 強み：その仕事を遂行するうえで発揮できるであろう自分の知識や能力、経験を記載する
2. 弱み：その仕事を遂行するうえで不足していると思われる自分の知識や能力、経験を記載する
3. 機会：その仕事に関するニーズが拡大すると判断できる情報（事実や傾向）を記載する
4. 脅威：その仕事に関するニーズが縮小すると判断できる情報（事実や傾向）を記載する
5. 下記の項目を検討する
 - ☐ 自分の強みを強化するためには何をすべきか（どうすれば他者より秀でた存在になれるか）
 - ☐ 自分の弱みを克服するためには何をすべきか（どうすれば他者に追いつき、追い越せるか）
 - ☐ 自分が求める仕事が増えている状況（チャンス）をうまく活用して、希望する仕事に就くためには何をすべきか
 - ☐ 自分が求める仕事が増えている状況（ピンチ）をどのように判断するか（撤退する or 方向転換する or そのまま突きすすむか。突きすすむ場合は、どのような方法でピンチを乗り越えるか）

アプローチ 2

自分が勤務したい会社・部署を想定して分析する

手順

1. 強み：その会社・部署で発揮できるであろう自分の知識や能力、経験と、自分の価値観・こだわりを記載する
2. 弱み：その会社・部署で仕事をするうえで不足している知識や能力、経験と、マッチしない価値観を記載する
3. 求め：その会社・部署が求めている人材像、採用基準等を記載する
4. リスク：その会社・部署に勤務するときに注意すべき情報（うわさ話を含めたマイナス情報）を記載する
5. 下記の項目を検討する
 - ☐ 自分の強みを強化するためには何をすべきか。自分の価値観をどのように生かすか
 - ☐ 自分の弱みを克服するためには何をすべきか。自分の価値観を変更することは可能か
 - ☐ 自分の強み・価値観と、その会社・部署が求めているものをどうマッチングさせるか。また、それをどのようにアピールするか
 - ☐ その会社・部署のマイナス情報を受け入れることが可能か。受け入れる場合、自分の価値観とどのように折りあいをつけるか

【注意】 アプローチ2の「自分が勤務したい会社・部署」は、転職を前提としたものではなく、現在勤務している会社・部署を想定して「あるべき姿」を展望することも重要です。